

平成26年度 学校通信 ちよしょうだより

学校教育目標「自ら学習意欲をもち、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

北九州市立千代小学校 八幡西区千代5丁目17-1 TEL617-4700 Fax617-4750

発行日 平成26年10月21日(火) 第14号 校長 庄展彦

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における千代小学校の結果分析と今後の取組について

学校通信12号でお知らせしましたように、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」の結果が出ました。6年生を対象として、平成26年4月22日(火)に「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」で実施しました。その結果をもとに分析し、学校の傾向や現状を明らかにするとともに、今後の取組について、整理しました。そこで、ご家庭での取組においても、参考にして戴ければ幸いです。なお、本調査により測定できる学力は、特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。特に、本校では、人権・平和を始め、他の教科等領域も含め、全人格的、総合的に学力向上を目指しておりますことを確認致します。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図っていきます。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立していきます。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均を上回っています。 読む能力が身に付いており、文章読解する力があります。 ・話す・聞く力を問う問題に課題があり、話したり、聞いたりすることを習慣化する必要があります。
	よくできた問題	・漢字を正しく読んだり、新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択したりする問題は正答率が高いです。
	努力が必要な問題	・故事成語の意味と使い方を理解する問題については正解率が低いです。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていたものの、北九州市平均と同程度でした。 全体的には、昨年度より上昇しています。 ・わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題に課題があります。
	よくできた問題	・課題を解決するために、目次や作品を活用して、本を効果的に読む問題は正答率が高いです。
	努力が必要な問題	・詩を比べて読み、自分の考えを書く問題は無解答率が高かったです。

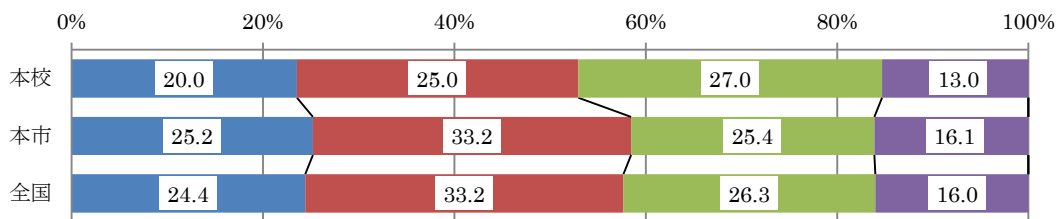
算数 A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を上回っています。 いずれの領域においても基礎的な数量や図形についての知識・理解や技能が身に付いています。 ・単量あたりの大きさの求め方については、やや課題があります。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの数量の関係について、単位量あたりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題は、正答率が高かったです。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・作図に用いられている図形の約束や性質を理解する問題は、正答率が低かったです。

算数 B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均をかなり上回っています。 特に図形についての知識や理解する力が身に付いています。量と測定や数量関係においても、数学的な考え方における力が身に付いています。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された条件をもとに、残った平面に4つの長方形を敷き詰める問題は、正答率が高かったです。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題は、無解答率が高かったです。

○ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・算数科に対する興味・関心は、高まりつつあります。本校の主題研究において授業の工夫・改善を図り、今後、様々な問題に出会っても積極的にいろいろな方法を考え解決していこうとする意識を高めていきます。基礎的・基本的な知識・理解や応用力等は身に付きつつありますが、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりする表現活動が苦手な傾向にあります。そこで、考えを深めたり高めたりする上で、学び合いや練り合いなどの話し合い活動を重視します。事前に、問題の解き方や考え方を整理するノートづくりをきめ細やかにすることで、自信をもって自分の意見を発表し、友達と話し合いで、深めることができるようになると思います。このように相互の意見をもとに協同で話し合いをし、よりよい考えを生み出す学習を進めていくことが重要です。今後、話し合い活動が活性化できるような授業づくりを推進していくことが本校の課題です。

<学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか？>



○ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・学校から出された宿題等、決められた学習についてはおおむね取り組むことができますが、自発的・自主的に、学校の授業の予習や復習等、家庭学習に取り組むことができていません。自分で計画して学習している児童の割合も全国や全市より少なく、差がある状況で、大きな課題です。1時間以上、家庭学習をしている児童の割合が少なく、家庭学習の絶対量が少ないと言えます。家庭学習ハンドブック等の活用が必要だと考えます。

<学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）>

